1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900368		
法人名	社会福祉法人 シティ・ケアサービス		
事業所名	グループホーム ユトリア博多		
所在地	福岡市博多区博多駅南3-4-36		
自己評価作成日	令和6年 2月 29日	評価結果確定日	令和6年6月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

当グループホームは、2019年12月に社会福祉法人シティ・ケアサービスに法人が変更となりましたが、開設から10年となります。2020年5月に2→3ユニットとなり、定員27名になっています。博多駅や福岡空港から利便性もよく、街中にあるグループホームです。1階にはテナントとして訪問診療クリニック、訪問看護ステーションが、それらとの医療連携もあり、安心して過ごして頂ける環境となっています。3ユニットそれぞれ個性を出し、またユニット間交流も行いながら、現状に沿い、安心安全に過ごして頂けるように、職員日々考え、サービス提供させて頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ユトリア博多」は平成26年に開設され、令和2年には3ユニットになった。母体法人は福岡市内で高齢者介護・障害福祉事業を運営している。6階建てで、2・3階にグループホーム、4・5・6階にサ高住で運営されている。1階の訪問クリニック・訪問看護ステーションとの、医療連携があり医療面においても安心して過ごせる環境になっている。事業所は博多駅から近く、近隣にはスーパーや公園などが徒歩圏内にあり、利便性が良い。公民館・保育園もあり、敬老会には保育園児が歌を披露してくれた。3ユニット間、それぞれの個性を活かしながら、交流も行っている。ユトリアカフェの再開やサ高住と合同で秋祭りを開催するなど、地域との交流にも力を入れており、今後も地域に根付いた活躍が期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和6年3月21日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果			
己自部外	項目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営			
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2階・3階それぞれのユニット事務所に「法人理念・サービスの方針」を掲示し、またグループホームのサービス方針も掲示し、各自日々確認し、職員間共有をしています。	法人理念と事業所理念がある。理念を基に毎年事業計画を作成する。各ユニット事業所内の目につく場所に掲示している。唱和は行っていないが、毎月の各ユニット会議で理念について話し合う機会を作り、共有に努めている。年2～3回管理者が個別面談を行っており、全職員が理念を元に日々のケアを通して、実践に向けて取り組んでいる。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ5類移行受け、RUN伴(中継地点)や秋まつり、焼き芋作り等を実施し、関係事業所のみならず、地域との交流を図る事ができました。また、提携訪問看護ステーションが開催しているカフェにも参加しています。	令和5年9月同敷地内のサ高住と合同で秋祭りを開催し、戦隊もののステージを提供するなど、地域住民、家族も参加し楽しんだ。コロナ禍で中断していた学生の介護実習の受入も再開した。公民館に参加している婦人会の方がクリスマスツリーの作品を持ってきてくれた。訪問看護ステーションが開催しているカフェにて、健康相談に利用者も参加した。昨年11月には「RUN 伴」の中継点となっており、今後も継続し理解を深めていく。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「ユトリアカフェ」の開催を再開し、現状はサ高住・グループホーム入居者中心であるが、以前あった地域の方の参加等も徐々にふえてくるものと思われれます。また、昨年実施したRUN伴の活動も今後も継続していき、理解等を深めていきます。	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の対面開催を再開し、地域、関係事業所、ご家族よりいろいろな意見を頂き、また勉強会等を通して、サービス向上に活かすようにしています。	2か月ごとに定期的に開催している。包括・婦人会、訪問歯科・訪問薬局・近隣の事業所などが参加しており、ご家族には全員に案内を出し、数名が参加されている。入居状況や活動内容、事故報告、次回開催日などを細かく報告し、いろいろな意見や地域の情報提供も頂き、また勉強会を通してサービス向上に活かしている。議事録は参加者・市役所に郵送している。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話・FAX・メール等にて保険者担当の方・地域包括支援センターに相談・報告等を行いつつながら、協力関係を築くようにしています。また福岡県グループホーム協議会、福岡県介護支援専門員協会職域部会に参加し情報交換・共有を図っています。	運営推進会議の議事録や介護保険の申請書を郵送したり、事故報告や運営上の不明な点など、こまめに質問や相談をしている。包括へは空室状況を報告しており、入居についての相談もある。良好な関係が築けている。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」を開催し、各ユニット間情報共有をしています。福岡県身体拘束ゼロ施設見学会に参加し、その取り組みを参考に適切なケアをしています。ユニット出入口のオートロックに関しては、換気等の際に開放したりして、身体拘束の観点から日頃よりその対応等について考え話し合いをしています。また、環境面でハード面のみならずソフト面(職員の声掛け・対応方法等)においても、日頃より職員間で確認等を行っています。	身体拘束をしないケアに職員全体で取り組んでいる。身体拘束廃止委員会やユニット内の勉強会や福岡県身体拘束ゼロ施設見学会・リスクマネージメント委員会などの外部研修に参加し、職員はスピーチロックを含めた拘束についての理解を深めている。帰宅願望のある方もいるが、無理強いせず付き添い、落ち着くまで見守り対応している。

R6.3自己・外部評価表(グループホームユトリア博多)確定

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7				○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や、内部研修の開催は必須として行っており、また日頃から「スピーチロック」等気になる言動があれば、職員から話をするようになっています。加えて、定期的・随時ユニットミーティングにてリスク委員中心に情報共有を図っています。			
8	(6)			○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修へ参加したら、伝達研修として内部報告等しています。成年後見制度を利用されている方がご入居されていたこともあり、実践としても各職員理解を深めています。	現在成年後見制度を1名の方が利用している。職員は勉強会やその事例を通して認識を共有している。必要時には施設長や管理者が説明して行政に繋ぐ体制が整っている。		
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、重要事項説明においてご家族様には事前に2時間程度時間をとって頂いたうえで、理解・納得して頂けるように説明しています。契約後に出てくる不安・不明な点に関しても、都度対応・説明等しています。			
10	(7)			○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡時等にご本人さまの様子等をお伝えしつつ、何か意見や要望等がないか確認等を行っています。特に面会時においては職員より積極的にお声かけさせて頂き、加えて運営推進会議への参加を可能な範囲で促し、話等がしやすい環境作りを努めています。	コロナ禍で訪問に制限を設けていたが、現在は10～16時の間で人数制限もなく居室での訪問を再開している。訪問時や電話で家族から意見や要望を伺がっている。意見箱の設置はあるが、投函はない。以前は「ユトリア通信」を2か月に1回発行し、日頃の様子を写真付きでお伝えして家族に喜ばれていた。今後「ユトリア通信」の再開も検討している。利用者からは日頃の会話・表情などから潜在的な要望をくみ取るようになっている。	意見箱の活用のために、請求書や運営推進会議の議事録と一緒に記入用紙を郵送し、来所時にいれてもらうようアナウンスするなど、方法を、検討されてはどうだろうか。また、「ユトリア通信」の再開も検討しているとの事。実現に向けて期待したい。	
11	(8)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長・ユニット管理者・リーダーとの個別面談の機会を定期的に行い、情報共有を行いながら、リーダー会議において決定事項等を再度発信等し、それをユニット職員に伝えながら、職員個々の意見や提案等を聞きやすい環境を作っています。	毎月1回の各ユニット会議や日頃の申し送りにて情報共有し、ケアの方法や、備品の提案などについて要望を出せば速やかに対応してもらっている。職員は、利用者にもいつもと違うところを感じた時などは積極的にあげるようになっている。管理者と年2～3回の面談もある。管理者が現場に入っていることが多く、日頃から相談しやすい環境である。外部機関によりカウンセリングを受けることができる体制がある。		
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度やキャリアパス制度により、個々の努力や実績を処遇に反映させる制度がある。外部機関によりストレスチェック、メール・電話、状況に応じて対面でのカウンセリングを受ける事もできる体制にあります。			
13	(9)			○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようになっている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女年齢、経験、経歴問わず幅広く雇用しています。定年後も継続して働いている方もいます。職員それぞれの能力や特技等を活かし、資格取得に向け勉強している職員や、職員の自主的な取り組みを大切に、取り組んでいます。	男女比は4:6程度で20～70代と幅広い年齢層が勤務し、職員同士のコミュニケーションは良好である。新卒にはOJTが付き、定期的に振り返りを行う等、教育にも力を入れている。資格取得に向けた支援や外部研修の案内などもされており、自己研鑽に励んでいる。希望休なども取りやすく、休憩時間・場所も確保されている。折り紙・レクリエーションなどそれぞれ個々の能力を活かし生き生きと仕事に取り組んでいる。		

R6.3自己・外部評価表(グループホームユトリア博多)確定

自己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	リスク委員会の中で権利擁護についての知識・理解を深め、それを各ユニット内にて、更に深め、日頃の対応において適切かを職員間で日々確認、意見交換等を行っています。	権利擁護、虐待防止、認知症高齢者に対する理解などに関しては各ユニットの勉強会で定期的に実施して、啓発に繋げている。リスク委員会の内容は毎回事前に全職員にアンケートを取って、テーマを決めている。言葉遣いなどで気になった際は、その都度、管理者が指導している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを基本とし、新卒にはトレーナーが付き1・3か月と節目で振り返り・評価を行いながら、個人面談をしている。内部研修においては各委員を中心に内部研修を実施しています。外部研修において、現状参加は少ないが、今後は積極的参加等を考えています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内他事業所との意見交換会や施設訪問を実施したりして交流を回りお互いの質の向上に努めています。また、福岡県グループホーム協議会、福岡県介護支援専門員協会職域部会を通じて、研修への参加や意見交換、ネットワーク作りを通して、サービス質の向上を努めています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に、必ずご本人様と面談を行い、またご家族や必要に応じて関係事業所から情報収集することで、ご本人様の安心に繋げていく様にしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせ～施設見学時から、契約～入居以降においても、電話や面談時に話をさせて頂きながら、関係を深めていき、気兼ねなく話等ができる関係作りに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ユニット計画作成担当者を中心に、サービスを導入する前にご本人・ご家族に意向を確認し、アセスメントからケアプランの立案、必要なサービスの見極めを行っています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共にできることは行うようにしている。家事(洗濯物干し・たみ、自室内外掃除やリネン交換、食器拭き・テーブル拭き等々)をして頂いたり、職員と一緒にするようにしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ5類移行受け、日中の時間帯だが、面会・外出可能としています。その際、それだけに止まらず、時には電話含め、職員より日頃の様子等をお伝えし情報共有を図り、また必要に応じて衣類や物品等の依頼を行いながら、共に支えている関係作りに努めています。		

R6.3自己・外部評価表(グループホームユトリア博多)確定

己	部	外	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関して日中10:00～16:00の間で可能としていて、ご家族様来設され、居室で過ごされたりしています。また、主治医確認のうえで、一緒に外出もされることもあります。	家族と馴染みの美容室や病院に行かれたり、お墓参りに行かれ、お食事を一緒にされた方もいる。正月に自宅に戻ったり、外泊をした。訪問理美容の利用もある。知人の訪問もあり、旧交を温めることもある。電話の取次ぎなどの支援も行っている。	
23			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が、支え合えるような支援に努めている	食事、レクリエーション時等のフロア内席を固定等せず、その時々に応じてご入居者同士話等しやすい環境、過ごしやすい環境作りを努めています。		
24			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され他医療機関・施設等に移られた方でご家族より現状報告等の連絡あったり、ご逝去された方の初盆や何か機会等ある際は、個人の話をして偲ぶこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
25	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時は、管理者計画作成担当者中心にご本人の希望や意向等を把握しケアプランを作成しています。意向確認が困難な場合はご家族に確認等を行い、本人の思いに寄り添うようにしています。	入居前のアセスメントは管理者や計画作成担当者が本人・家族からこれまでの生活歴・馴染みの暮らし方・要望・不安なことなどを聞き取り、把握に努めている。思いを表出することが難しい方には表情・仕草・何気ない言葉などから思いをくみ取り、本人本位に検討している。ケアプラン更新時や状況が変化した際には、計画作成担当者が、随時アセスメントの更新を行っている。	
26			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面談時にご家族のほか、医療・介護サービス関係者からも今までのことを聞いたり、またご本人からの話のなかの情報からも把握するように努めています。		
27			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今できる事・している事、出来にくくなっていることを日々の生活、ケアの中で把握に努め、計画作成担当者、そのご入居者担当職員中心に申し送り等していく中で、他職員含め共有を図っています。		
28	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、居室担当職員がご本人・ご家族からの意向・要望等を確認し、併せて計画作成担当者・管理者が他関係機関(主治医、薬局、訪問看護)からの意見等を確認しながら、介護計画を作成しています。	各ユニットの計画作成担当者が半年～1年ごとにプランを見直ししており、その際に担当者会議を開催し、本人・家族の意向・医師や薬剤師等から口頭や書面により意見を伺っている。職員は2～3名の利用者を担当している。毎日のケース記録記入の際にも、ケアプランが参照しやすくしており、全員に目標の共有が図られている。モニタリングは1ヶ月ごとの各ユニット会議で話し合い、計画作成担当者が作成している。	

R6.3自己・外部評価表(グループホームユトリア博多)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等については、個別に記録等しています。併せて出勤時には記録を確認のうえ送りにて情報の共有をしています。変化・気づき等あれば都度検討し、実践していき、連続し変化が見られる際はミーティングにて、対応を検討し、必要に応じて介護計画の見直し等を行っています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会に関しては基本的に10:00~16:00内にて特に制限設けず対応しています。外出・外泊に関しても主治医確認の上、可能としています。 食事に関しても、定期以外で、家族からの差し入れや本人希望に応じて提供等しています。希望等に応じて、散歩や職員同行で買い物等実施しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域活動に関して可能な範囲で参加するようにしています。施設での秋祭り、RUN伴、敬老会、焼き芋作り行事に参加等を通して楽しく過ごす機会を作っています。今後も、施設内外行事等を通して楽しみをもって頂けるようにしています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後のかかりつけ医に関しては、グループホーム側からの指定等はしておらず、入居前からのかかりつけ医を継続している方もいます。施設・階に訪問診療クリニックありますが、ご本人・ご家族のニーズに合わせてかかりつけ医の選択等を共に行っています。	元々のかかりつけ医を希望される方は継続も可能だが、ほぼ全利用者が提携医からの訪問診療を利用している。緊急時以外の他科受診は家族に受診をお願いしているが、難しい場合は事業所が通院介助を行う。提携医と他科受診の医師間で情報共有や訪問看護事業所と医療連携しており、何かあれば連絡し緊急時の対応ができています。職員間でも情報を共有し、家族への報告もこまめに行っており、家族の安心に繋がっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設1階テナントとして入っている訪問看護事業所と医療連携しています(医療連携加算算定)。昼夜問わず、電話・LINE等で連絡報告相談等できる体制にあり、また適宜訪問も受けています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報提供書と併せて入院時には口頭・書面等でそのご本人の日常生活をお伝えし、変わらぬケアの提供等が出来るように配慮しています。入院中、その医療機関(病棟看護師、ソーシャルワーカー等)と適宜連絡等しながら、情報共有を図っています。退院の話が出たときは、主治医・訪問看護とも共有し、退院前カンファレンスを行うようにしています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できていることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化及び看取りに関する指針を説明しています。今年度も看取りさせて頂いたケースがありました。 看取りの話が出た際ご本人・ご家族、主治医・訪問看護、介護職員等にてカンファレンスを行い、その後も状況の変化に限らず、ご本人・ご家族にご意向確認しながら、それに沿えるように関係者間チームとして取り組んでいます。	希望があれば最期まで支援する指針を定めており、入居時に説明している。早い段階から家族や医師と話し合いを重ねて方向を決め、看取り対象となった時には説明し同意書をもらう。訪問看護事業所の看護師による勉強会の実施や個別の事例があった際に、看取りケアについて情報共有をする。看取り後に職員とともに話し合いを行い、管理者は職員のメンタル面にも心を配り、次につなげるようにしている。今年度は1名様の見取りを行った。	

R6.3自己・外部評価表(グループホームユトリア博多)確定

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットに救急時対応マニュアルあり、適宜ユニット内で確認しています。また、防災訓練時や職員入職時にはAED使い方や連絡・対応等訓練しています。		
37 (16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間想定で防災・避難訓練を実施しています。 内部研修の中に「防災について」という内容で福岡市のハザードマップに照らし合わせて、内容の確認、この施設は何か一番危険かを職員間共有をしています。	災害対策のマニュアルやBCPは策定している。年2回、夜間想定を含めた避難訓練を実施し、2回とも設備の使い方や点検を含めて防災会社の立会いがあった。消防署の立会いはないが、報告をしている。以前は運営推進会議時に避難訓練を実施し、家族や地域の方に参加してもらった。水・食料・医薬品、電池などの備蓄も確保している。	運営推進会議の日に避難訓練の実施を検討していると聞く。家族や地域住民に施設の取り組みの現状を知ってもらう為にも、実現に向けて期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
38 (17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	浴室、トイレ、居室扉開閉等について、プライバシーを考慮して日頃より行動し対応しています。 入室に際してはノックするようにしている。また在室、使用時の扉開閉については十分に気を付けるようにしています。他言葉使いに関してもユニットミーティングでも取り上げ、職員間確認するようにしています。	接遇・マナー・プライバシー保護などの勉強会を定期的実施している。日々のかかわりの中で、節度のある言葉遣いに努め、利用者の尊厳を保つよう配慮している。トイレ介助の際には必ず扉を閉めるなど、羞恥心に配慮したケアにも取り組んでいる。気になる言動があった際は、その都度、管理者が指導している。契約時に写真の利用を含めた個人情報利用に際しては、目的を明示し、書面で同意を得ている。	
39	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身ひとり一人のご意向を確認しながら、それに沿えるように対応等しています。自己決定難しい方に対してはご家族に確認したり、職員側でこの方だったらを考えながら対応等するようにしています。		
40	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースで過ごして頂けるように、ご本人に確認等しながら対応等しています。 レクリエーション等に関しても無理強いとしないよう、確認しながら希望に沿うようにしている。		
41	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝はご自分で選んだ服にを着用し、夜就寝前にはバジャマへ更衣し、一日のメリハリをつけて頂くようにしている。外出有無に限らず、お化粧されることも見受けられます。		
42 (18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事に関しては、厨房で栄養管理されたものを手作りで提供しています。毎月一日にはお赤飯が出たり、他季節にあった食事の提供もあります。お正月や敬老の日などは行事食を楽しんでいただいています。レクリエーションやお誕生日会に、おやつ作りを一緒にしたり、他テーブル・食器拭き等その方に応じて一緒に準備・後片付けをしています。	1階の厨房施設で作られたものが配食されている。管理栄養士による毎食栄養バランスの取れた季節感あふれる食事が提供されている。毎月一日はお赤飯が提供されている。各利用者の嚙下状態に合わせた形態に対応している。テーブル拭きや食器洗いなど手伝えることを職員と一緒にしたり、おやつレクではホットケーキやお好み焼きと一緒に作ったり利用者同士が楽しみながら参加している。職員は見守り介助を行いながら、食事を楽しんでもらえるような雰囲気づくりに努めている。	

R6.3自己・外部評価表(グループホームユトリア博多)確定

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
				43	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者の状態(病状・嚥下等)に合わせた食事形態(常食、刻み、ミキサー食等)・量を提供しています。都度食事量・水分量を記録に残し、併せて体重測定・血液検査の結果等踏まえ、主治医の意見を伺いながら、適宜検討等しています。		
				44	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理体制加算を取っており歯科医師より助言・指導を受けご入居者の適した口腔ケア(ブラッシング、スポンジ等々)を行っています。歯ブラシ・コップは夕食後の口腔ケア後の熱湯・次亜塩素酸希釈液にて消毒等行っています。		
				45	(19) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者個々の排泄パターンは把握するよう心がけ、なるべくトイレで排泄して頂けるように、ここに応じた排泄支援を行っています。また、ウォシュレットの活用、陰洗・清拭等行い、清潔保持に努めています。おむつ類に関して、すぐの使用とはせず、状況を把握し、残存機能等を大切に自立に向けた支援をおこなっている。使用する際は、ご本人の状況に合わせたモノを検討し使用している。	全員を一枚で管理できる排泄チェック表があり、利用者それぞれに合わせたタイミングでトイレ誘導している。出来る限りトイレでの排泄を行うようように配慮し、パット利用も利用者の負担が軽減できるような物の交換などを適宜提案している。トイレは各ユニットに3ヶ所あり、うち2ヶ所は車いすの介助がしやすい。失禁もなく、トイレでの排泄がうまくいった事例なども、申し送りで情報共有をしながら、トイレにて自立した排泄に向けた支援を行っている。	
				46	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り自然排便できるように水分や食事、また日頃より運動の機会や入浴時等に腹部マッサージ等しています。排便しない際は、主治医・訪問看護に報告・相談等し、その方に合わせた処置をするようにしています。		
				47	(20) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ただ、入浴するだけでなく、気持ちよく、そして楽しんで頂くように、体調・気分等にあわせて曜日や時間を調整している。浴後の衣類の選定、お好みのボディソープ・シャンプーや入浴剤の使用等ご本人と確認し対応等しています。個浴対応が難しい方は、機械浴対応を実施。拒否等ある方には無理強ひせず、対応職員の変更や曜日時間帯の変更等の対応を実施しています	週2回午前中の中の入浴を基本としているが、利用者の希望や体調に配慮しながら柔軟に対応している。個浴対応が難しい方は、機械浴対応を実施している。拒まれた際も無理強ひはせず、タイミングが合う時に提供し、清潔な状態が保てるように支援している。好みのボディソープ・シャンプー・入浴剤を使用したりと喜ばれている。入浴時に皮膚観察もしており、何かあった際にはすぐに医師や訪問看護師との連携も取れる。入浴は大事なコミュニケーションの場としている。	
				48	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠に繋がるよう、なるべく日中は離床して過ごして頂くようにしているが、その方の状況に応じて、日中でも臥床して頂く事もある。ご本人の希望や心身状況に応じたの対応をするようにしている。居室においては、寝具他ゆっくり過ごして頂ける環境を作るようにしている。		
				49	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者それぞれの薬情報わかるようにファイルにとじ、かつお薬手帳をすぐに確認できるように保管している。処方薬局(居宅療養管理指導)と日頃より連携をしていて、なにかあれば対応して頂けるよう体制をとっている。		
				50	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者それぞれの生活歴等を把握し、日常生活においてご本人が好きなおこと(うた、脳トレ、手作業等)、出来ることとしている事(家事等)が出来るように提供・支援をしている。個々に合わせた役割等が定着できるような支援している。		

R6.3自己・外部評価表(グループホームユトリア博多)確定

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援に関しては、現状近隣への散歩等を実施している。R6.1初詣で2～3人ずつであるが初詣外出実施。他は近隣への散歩等を実施。可能な方はご家族と自宅や買物・食事等にて外出される方もいます。今後、ご本人・ご家族と確認しながら、希望に添える外出ができるよう支援をしていきます。	感染予防に配慮しながら、少人数で住吉神社に初詣や桜を観に行くなどの外出行事を行い、利用者に喜んでもらった。正月は家族と一緒に外出された方もいる。日頃から天気の良い日に近隣の公園に散歩やスーパー・コンビニに職員と一緒に買い物に行くなど、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理について、ご本人行っている方はいませんが、ご家族承諾のもとお金所有されている方います。希望があれば、職員付き添いものと買い物にいく事もあります。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所有されているかた、ご自身で電話かけたり受けたりされています。ご自身で操作が難しい方は職員がサポートしたり、外線の取次等もしています。手紙に関しても必要に応じて職員が支援等している。毎年、年賀状をご家族宛に職員支援のもと出すようしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用リビングには季節に応じた飾り付けを行い、各ユニット出入口前には季節の飾りやお花を飾っています。快適に過ごして頂けるよう、居室・共用リビングの明るさ・空調管理に努めています。食事の際はテレビを消し、ゆったりとした気持ち・雰囲気を取り持つよう音楽を流しています。	施設内は2フロアに渡って3ユニットが配置されており、白い壁と木目調を基調とし温かみがある。各ユニットに3方面から介助ができる浴槽と4階には機械浴がある。事業所内は音楽・照明・空調に配慮しており、明るく清潔感がある。掃除も行き届き、衛生面にも気配りがなされている。テレビ周りにソファスペースがあり、それぞれが好きな場所でゆったり過ごしている。壁面には利用者と一緒に製作した作品などがバランス良く飾られている。季節感を味わうことができ、利用者と職員の笑顔がたえず楽しそうな様子が伺え、居心地がよく過ごせるように工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席(テーブル席、ソファ等)に関して、特段決めては無く、お好きな所で過ごして頂けるようにしています。一人で過ごしたいときは、それぞれの居室でテレビ見たり本読んだり等ゆっくり過ごせるように配慮等しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人・ご家族に相談等して、使い慣れたモノ(イス、タンス等)を持って来て頂いている。ご本人が居心地よく過ごして頂けるように、写真の展示や寝具類の持ち込みみされている方もいる。また、お仏壇を置いている方もいます。	各居室は6畳程の洋間のフローリングで介護ベッド、エアコン、カーテンが備え付けられている。居室入り口には本人・家族の了解のもと表札をつけている。使い慣れた家具や仏壇を持ち込んだり、家族の写真や飾りをつけて、利用者が心地よく過ごせるように工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリーとなっており、居室内も生活動線に合わせて、家具の配置等考え、配慮している。居室入口にはご本人・ご家族了解のもと表札をつけています。廊下・トイレ・浴室は手すりを設置し杖歩行・独歩の方の自立を考えた安全な環境となっています。		